



横浜市立一本松小学校

12月号

学校だより

令和3年11月30日
横浜市立一本松小学校
校長 高桑 透

行事で得る力・発揮する力

副校長 高木 圭子

今年も早いもので12月を迎えようとしています。今年もコロナ禍での教育活動となりましたが、緊急事態宣言が解除された11月からは「読み聞かせ」や人権移動教室、9月から延期になっていた総合防災訓練、体験学習や学習旅行、遠足、授業参観など多くの行事を実施することができました。

校外学習では1,2年生の新江ノ島水族館遠足、4年生の三浦体験学習、6年生の箱根学習旅行を引率してきました。久しぶりの校外での活動を友達と生き生き楽しむ姿と、どの学年も、行く先々で出会う方々、展示してある物や資料に興味を示し、食い入るように学ぶ知的好奇心の高さに感心しました。見たいこと、知りたいことが簡単にネットで見られる時代ですが、本物に出会い、関わるからこそ好奇心が刺激され、さらに知りたくなる。経験から得られる学びは大きいものでした。

6年生の箱根学習旅行では芦ノ湖で海賊船に乗る計画がありました。当日は晴天に恵まれましたが、強風のため海賊船が運航するか心配されました。午後になり、運航が決定されると、多くの観光客と一本松小の子どもたち、本校以外の小学校3校が同乗して出航しました。海賊船は1,2階が船室となりベンチが設置されています。3階はデッキで風を受けながら景色を楽しむことができます。私は1階からデッキまで移動しながら見守りをしていたのですが、2階に行くと多くの子どもたちがせわしなく動き回ったり、扉を乱暴に開閉したり、興奮して大声で話すなどして、観光客の方は明らかに不愉快そうな雰囲気でした。私は「もしも一本松小の児童がいたら…」と思い、その階にとどまり確認したのですが、一本松小の6年生は一人もいません。またその後一本松小の6年生が2階に来ることがありましたが、多くの観光客がいることを見てデッキに戻っていったり、私を見かけてベンチに座ってもよいか小さな声で確認に来たりなど、周りへの配慮をしながら行動していました。デッキは強風のため寒かったことと思います。バタバタとした2階の様子は変わることがありませんでしたが、一本松小の子どもたちを注意することは一度もなく下船となり、私は密かに誇らしげな気持ちになりました。

校外学習では、決められた活動以外の多くの場面で、自分で判断し、行動する力が求められます。この力は普段の姿がそのまま表れます。6年生の海賊船での立ち振る舞いは、日頃ご家庭で外出した時に気を付けてきたこと、学校では集団として行動するときに指導されてきたこと等、子どもたちがこれまでに培い、身につけてきた力の賜物だと感じました。

2年生の児童が「授業参観て何?」と話していたと職員室で話題になりました。本当に長い期間保護者の方に子どもたちの学校での様子をお見せできていなかったことを改めて感じました。先週短い時間ではありましたが、授業参観ができ、お子様の様子を参観していただきました。12月には個人面談があります。ご家庭と学校で子どもたちの成長をどのように支えていくか、共有する機会にしていきたいと思います。

今月も子どもたちの安全を第一に教育活動に取り組んでまいります。ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。